

脅威伝える壊れた壁

宮古市崎山は谷地や高台に集落が広がり、1996年に国の史跡に指定された崎山貝塚などを有する地区だ。環境省の「日本の快水浴場百選」にも選ばれた

記憶の碑

いしぶみ

～遺構編～ ⑤

宮古市崎山・震災メモリアルパーク中の浜

女遊戸海水浴場は白い砂浜と松林の緑、海の群青のコントラストが美しく、夏は多くの海水浴客が訪れた。女遊戸自治会の前川寿文会長(83)は「海水浴場の駐車場だけでは収まらず周辺施設にも車があふれるほどにぎわった」と当時を懐かしむ。東日本大震災では同市崎山で22人が亡くなり9人が行方不明、住家40戸が全壊した。海岸沿いにあった中の浜キャンプ場も被災し、現在は「震災メモリアルパーク中の浜」として津波の被害を伝えている。

展望の丘がれき使う

宮古市崎山の中の浜キャンプ場は三陸鉄道一の渡駅から東に約2キロの海岸沿いにあるレジャー施設だ。海に面した山あいにフリーサイトと常設トイレが並び、夏には県内外の家族連れがシカヤックや釣りを楽しんだ。震災時はシーズンオフで幸い利用者はいなかったが、津波は施設を全壊させた。展望の丘がれきを使う、学習旅行などに活用されている。



むき出しになった基礎と破壊されたコンクリート壁が津波の威力を物語る中の浜キャンプ場のトイレ・シャワー室―宮古市崎山

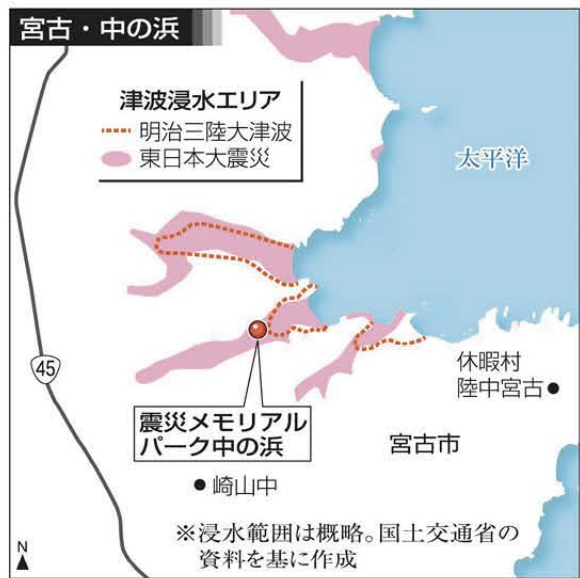


震災前の中の浜キャンプ場。左奥のトイレ・シャワー室が今も遺構として残る(休暇村陸中宮古提供)

災害への油断は禁物



「未来への伝言」 宮古市宮町 休暇村陸中宮古職員 平野裕太郎さん(37) 休暇村陸中宮古で「震災ガイド」をしている。東日本大震災の時は気仙沼市の大島にいて、2週間孤立した経験も交えて伝えている。パークは昨年の台風19号でも被災した。災害に「二度来たから大丈夫」「これくらいなら問題ない」という油断は通用しない。二つの災害の爪痕を見られる貴重な場所なので、ガイドする際は自然の脅威とすぐに遠くへ避難することの大切さをしっかりと伝えたい。



東日本大震災の被害を伝える宮古市崎山の震災メモリアルパーク中の浜(本社小型無人機で撮影)

QR code and text for the memorial park information.

復興の火 大船渡到着 気仙大工、木造建物で歓迎



大船渡市で展示された復興の火。五輪開催が揺るぎの中、多くの市民が来場した。復興の火が燃え上がり、来場者は次々と記念撮影して思い出を刻んだ。この日は国際オリンピック委員会(IOC)が大会の延期を含めた検討開始を発表したばかりで、来場者は本番の行方が気掛かり。同市盛町の学習塾経営者船山良忠さん(71)は「無事に五輪が開催できればいいが、どうなるか。延期となっても中止にはなっていないといい」と訴えた。

東京五輪・パラリンピックの聖火リレーに先立ち東日本大震災の被災地を巡回する復興の火は23日、県内2日目の日程を迎え、大船渡市大船渡町のおおふなほ1とで展示された。新型コロナウイルス感染症拡大大会の延期観測も出る中、来場者は五輪の成功と復興の願いを新たにしていた。

津波到達点に 宮城官理町 東日本大震災で被災した宮城県官理町の海岸から4キロ超の津波到達地点付近で植樹された桜樹が、津波の被害を伝える。お披露目式典が行われた。仙台市の主婦らが京都の造園家と協力し「津波避難の目印」と2014年から県内の沿岸14市町で植樹を続けてきた。今回は最後の一本となった。

追憶写真館 684 東日本大震災後、がれきの中から見つかった写真で、所有者が不明で返却できないものを掲載しています。地名は発見場所です。掲載した写真に心当たりのある方は、以下の問い合わせ先に連絡をお願いします。

被災地での学び発信 静岡大成高1年 尾崎 萌音さん 放送部の取材活動で、陸前高田市の津波伝承館を訪れた。消防団員が大勢犠牲になったことなど多くのことを初めて知り、この9年間に自分ができることは何かなったのだろうか、と心が痛んだ。静岡も南海トラフ地震が来ると言われている。被災地に来て学んだことを映像番組にして住民に伝え、津波で犠牲を出さないよう対策を考えてもらおうとしたい。

災害義援金受け付け 【東日本大震災】 ◆銀行振り込み 岩手銀行本店(普)2135547 北日本銀行本店(普)7028487 東北銀行本店(普)3237448 盛岡信用金庫本店(普)0354142 東北労働金庫盛岡支店(普)5858584 岩手県信連本所(普)0027190

【西日本豪雨】 ◆岩手日報社窓口 本社事業部で平日の午前10時～午後4時。土・日・祝日は除く。 ◆振り込み ゆうちょ銀行・郵便局00130-8-635289 口座加入者名「日赤令和元年台風第19号災害義援金」 ※受領証の発行を希望する場合は、通信欄に「受領証希望」と記載のこと。

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。